

宮崎学 自然の鉛筆

Manabu Miyazaki: The Pencil of Nature

2013年1月13日(日)―4月14日(日)

開館時間=[1月]10:00―16:30 [2・3月]10:00―17:00
[4月]10:00―18:00 ※入館は閉館の30分前まで

休館日=水曜日 ※3/20は開館、翌日休館

入館料=一般 800(700)円、高・大学生 400(300)円
中学生以下無料 ※()内は20名以上の団体料金

主催=IZU PHOTO MUSEUM

〒411-0931 静岡県長泉町東野クレマチスの丘(スルガ平)347-1
Tel. 055-989-8780 www.izuphoto-museum.jp

IZU PHOTO | MUSEUM

展覧会名 = 宮崎学 自然の鉛筆

Manabu Miyazaki: The Pencil of Nature (英題)

会 期 = 2013年1月13日(日) — 4月14日(日)

宮崎学は70年代始めから自作の赤外線センサー付きロボットカメラを使い、森のヴェールに覆われた野生動物たちの姿を撮影してきた写真家です。狩人のような洞察力と最新鋭の機材を駆使することによって、動物自身にシャッターを切らせることを可能にできました。

本展のタイトルは、写真術の発明者の一人であるウィリアム・ヘンリー・フォックス・タルボットの世界初の写真集『自然の鉛筆』から付けられています。「自然の鉛筆」という言葉には自然(光)が自ずから描く自画像としての写真という意味が込められており、宮崎の手法とも重なるものです。宮崎はこれまで黙して語らぬ自然を写真という視覚言語に翻訳してきましたが、近年人間の生活空間の近くに出没する野生動物や人間の手によって持ち込まれた外来動物の姿は、現代社会を映し出す鏡のようにも見えます。

美術館での初個展となる本展では、第9回土門拳賞を受賞した「フクロウ」をはじめ「鷲と鷹」「けもの道」「死」「柿の木」「イマドキの野生動物」シリーズなど代表作約130点を展示します。「自然界の報道写真家」による知られざる野生動物たちの姿をご覧ください。

〈われわれは自然についてどれだけ知っているのだろうか?〉

[作品介绍]



① カンムリワシ

動物写真家・宮崎学の名を一躍有名にした「鷲と鷹」シリーズ。日本では繁殖していないと言われていたカンムリワシの巣を、写真家である宮崎が西表島で初めて発見した。



② 鶴岡八幡宮のタイワンリス

鎌倉の鶴岡八幡宮を闊歩する外来動物のタイワンリス。人間の手で海外から持ち込まれたのをきっかけに、日本各地に広く繁殖するようになった。在来のニホンリスの減少要因になることが危惧されている。



③ 雪の上で静かに死んだニホンジカ

動物の死骸がさまざまな生物たちによって分解され、土に還っていく様子をロボットカメラの定点観測で撮影した「死」のシリーズ。「自然の死によって生命は、絶えることなく、連鎖とつながっていることを、私は自然から学んだのである」(宮崎学『死』より)



④ フクロウ

『フクロウ』で第9回土門拳賞(1990年)を受賞。立ち木を設置し、フクロウを徐々にライトに慣らせることで森の中に撮影スタジオを製作した。真っ暗闇の中を飛翔するフクロウの姿を撮影するのは至難の業だが、特殊センサーの発達で可能になった。



⑤ ホンドテン

赤外線に反応して自動でシャッターが切れるロボットカメラを森の中のけもの道に設置。動物自身にシャッターを切らせることで、知られざる野生動物の生態を知らしめた。



⑥ カメラにいたずらするツキノワグマ

宮崎が人家近くに設置したロボットカメラで遊ぶツキノワグマの様子。ツキノワグマの生態はヴェールに包まれていたが、こうしたロボットカメラの発達によって明らかになりつつある。



⑦ 廃棄スイカに群がるイノシシ

食料の廃棄だけでなく農作業やお墓のお供えものなど人間の活動の多くが「無意識間接的餌付け」になっており、野生動物が人間の生活圏に頻繁に出没する要因になっていると宮崎は言う。



⑧ 柿の木

丘陵地に立つ一本の柿の木の様子を定点観測で撮影したもの。85歳になるこの柿の木は、人間社会がランプ生活だったころからこの場所に立ち続けているが、食料嗜好の変化で次第に忘れ去られていった。自然と人間の営みや時間の尺度の違いを静かに描き出している。

[略歴]

宮崎学 (みやざき・まなぶ)

1949年長野県生まれ。自然と人間をテーマに、社会的視点にたった「自然界の報道写真家」として活動。自作の無人撮影装置を使うことによって、撮影困難な野生動物の生態を数多く写真に収めている。日本の猛禽類の生態写真に関しては、第一人者として知られている。近年は日本各地の獣害対策のアドバイザーも務める。

1978年『ふくろう』で第1回絵本につぼん大賞、1982年『鷲と鷹』で日本写真協会新人賞、1990年『フクロウ』で第9回土門拳賞、1995年『死』で日本写真協会年度賞、『アニマル黙示録』で講談社出版文化賞受賞。他写真集・著書多数。

[関連イベント]

◎講演会

「自然・写真・人間」

宮崎学 × 小原真史(当館研究員)

日時：1月13日(日)午後2:30-4:00

料金：無料(当日観覧券が必要です。)

定員：150名

参加方法：お電話にてお申し込みください。(055-989-8780)

◎作家によるギャラリートーク

日時：2013年1月19日(土)午後2:15-3:30

料金：無料(当日観覧券が必要です。)

申込み不要(カウンターの前にお集まりください。)

◎学芸員によるギャラリートーク

日時：毎週土曜日(1/19除く)午後2:15-(約30分間)

料金：無料(当日観覧券が必要です。)

申込み不要(カウンターの前にお集まりください。)

[基本情報]

開館時間——— [1月]10:00-16:30 [2・3月]10:00-17:00
 [4月]10:00-18:00 ※入館は閉館の30分前まで
 休館日——— 水曜日(3/20は開館、翌日休館)
 入館料——— 一般800(700)円、高・大学生400(300)円
 中学生以下無料 ※()内は20名以上の団体料金
 住所——— 〒411-0931 静岡県長泉町東野クレマチスの丘 347-1
 電話——— 055-989-8780
 ファクス——— 055-989-8783
 ホームページ——— <http://www.izuphoto-museum.jp>

アクセス

車：(東京方面)東名裾野 I.C.→R246 経由、沼津方面へ 10km
 (名古屋方面)新東名長泉沼津 I.C. または東名沼津 I.C.→伊豆縦貫道(無料区間)へ、長泉 I.C. 出口右折、R246 経由 7km
 電車：JR 東海道線「三島駅」下車
 北口3番乗り場発、無料シャトルバスあり(所要時間 25分)

無料シャトルバス[三島駅 ⇄ クレマチスの丘]時刻表

○行き[三島駅]北口(3番乗り場)発								
時	9	10	11	12	13	14	15	17
平日	40	40	40	—	00	00	00	00
土日祝	40	40	40	—	40	40	40	—
○帰り[クレマチスガーデン]発								
時	9	10	11	12	13	14	15	17
平日	—	15	15	15	35	35	35	20*
土日祝	—	15	15	—	15	15	15	20

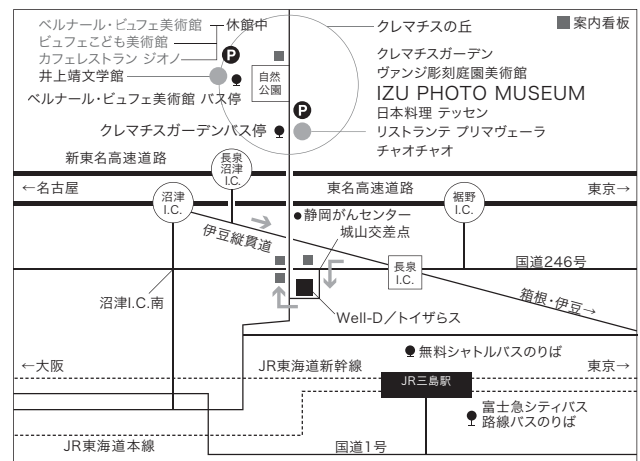
*は御殿場線「裾野駅」経由のため所要時間は約45分です。

◎クレマチスの丘・ヴァンジ彫刻庭園美術館で開催中の展覧会

「持塚三樹展 Sun Day」(—2013年3月5日) Tel. 055-989-8787

※ベルナルド・ピュフェ美術館は下記の期間、改修工事のため休館しております。
 2012年5月9日(水) - 2013年4月下旬(予定)

IZU PHOTO MUSEUM



[広報用画像]

本プレスリリース内でご紹介しました 8 作品について画像（デジタルデータのみ）の貸出をしております。
ご希望の場合は E メール、または必要事項をご記入の上 FAX にてお申し込みください。

広報用画像を希望する

■ 貴媒体名 _____

■ 掲載号 _____ ■ 発売日／放映日 _____ 年 _____ 月 _____ 日

■ 貴社名 _____ ■ ご担当者様 _____

■ TEL _____ ■ FAX _____

■ E-MAIL _____ @ _____

■ ご住所 _____

■ 資料お届け期限 _____ 年 _____ 月 _____ 日までにご希望

IZU PHOTO MUSEUM 広報担当 (永原／奥山) 宛

E-mail: nagahara@clematis-no-oka.co.jp

FAX: 055-989-8783

〒411-0931 静岡県長泉町東野クレマチスの丘 347-1 TEL. 055-989-8780